

白いちご新品種「栃木 iW1 号（ミルクベリー）」の育成

1. 成果の要約

とちおとめに比べ大果で収量性がやや高く、果皮色が黄白色で外観および果実品質に優れる白いちご「栃木 iW1 号」を育成した。

2. キーワード

白いちご いちご 新品種

3. 試験のねらい

農業関係者や、観光業や飲食業、食品製造業などの関連産業から、新たな需要を喚起する新規性のあるいちご品種の開発が求められている。そこで、本県産のいちごの魅力向上と関連商品の多様化を目的として、大果で良食味な白いちごを育成する。

4. 育成経過

2011 年度「初恋の香り」（和田初こい）購入果実から実生を育成し、果皮が白色で果実が硬い系統を選抜した。2012 年度にその系統を種子親として、果皮色が淡赤色で食味の良い当所育成の中間母本「09-52-1」を花粉親とする交配を行い 2013 年度に系統「13-w1-2」を選抜した。その後、系統選抜試験、特性検定予備試験、特性検定試験を行い、収量性、果実の外観および食味に優れると判断されたことから、2016 年度に系統名「栃木白 1 号」を付し、系統適応性検定に供試した。その結果、実用性について一定の評価が得られたことから、2018 年 1 月に「栃木 iW1 号」の品種名を付して品種登録出願を行い、同年 4 月に出願公表となった（出願番号 32822）。

5. 特性の概要

- (1) 草姿は開帳性で生育は「とちおとめ」並み。開花及び収穫始期は「とちおとめ」と同程度で、頂花房の着花数は 10～12 花程度と少ない。収量性は「とちおとめ」よりやや高い。30g 以上の果実の発生率が「とちおとめ」より高く、平均 1 果重も「とちおとめ」より大きい。
- (2) 果形は円錐形、果色は黄白色で、果肉色は白い。光沢は良く外観は優れる。糖度は「とちおとめ」並みに高く、酸度は低いため、糖酸比が高く良食味である。食感は粘着質で熟度が進むにつれてねっとり感が増す。果皮硬度は「とちおとめ」並みである。
- (3) 未熟果は果皮、種子色ともに緑白色であるが、熟度が進むにつれて緑色が薄くなり、陽光面において果皮色は黄白色、種子は赤色に着色が進む。収穫適期は果皮色の色味と、種子色の着色程度で総合的に判断することができる。

6. 栽培上の留意点

- (1) 採苗仮植時および定植後の活着は「とちおとめ」よりやや遅い。
- (2) 暖候期以降、陽光面が桃色に着色する果実の発生がみられる。
- (3) 主に 2 次腋花房以降の果実で先端障害果が発生しやすい。
- (4) 栽培中にできるオセやスレの部分が黄褐色へ変色するため、栽培時はマルチ上に果実マットを敷くことが望ましい。
- (5) 過熟により傷み果が発生しやすいため、適期収穫に努める。

（担当者 いちご研究所 開発研究室 鶴見 理沙）

表-1 生育および収量 (2018 年)

品種	開花日 (月/日)	収穫始期 (月/日)	頂花房 着花数 (個/株)	月別可販果収量(g/株)							
				11月	12月	1月	2月	3月	4月	合計	収量比
栃木iW1号	10/30	11/30	12.0	30	165	74	193	286	67	815	113
とちおとめ	10/27	11/25	17.8	57	152	109	143	183	80	722	100

品種	可販果収量(g/株)			階級別果数割合(%)				
	頂花房	1次腋花房	2次腋花房～	30g<	30～22g	22～11g	11～7g	7g>
栃木iW1号	256	258	302	14.1	13.0	33.0	17.7	22.2
とちおとめ	254	232	236	4.3	10.8	39.9	21.1	23.9

品種	可販果数 (個/株)	可販果率 (%)	可販果 1果重 (g)	不受精果率 (%)	乱形果率 (%)	先端障害果率(%)	
						重	軽
栃木iW1号	40.4	77.8	20.2	2.5	8.3	7.1	9.3
とちおとめ	44.5	76.0	16.2	2.5	12.6	0.0	0.3

注. 7/3 採苗、9/18 定植のセル作型 2. 可販果は 7g 以上の果実

表-2 果実特性 (2018 年)

品種	果形	果色		光沢	糖度 (Brix)	酸度 (%)	糖酸比	硬度 (gf/φ2mm)
		果皮色	果肉色					
栃木iW1号	円錐	黄白	白	良	10.6	0.45	23.6	91
とちおとめ	円錐	鮮赤	淡赤	良	10.5	0.58	18.0	82



図-1 「栃木 iW1 号」 着果状況



図-2 果実外観



図-3 「栃木 iW1 号」の果実表面の経時的変化 (2019 年 4 月 9 日～15 日)